

---

# 黄色い恐怖

深川辰巳

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

黄色い恐怖

### 【Nコード】

N2722J

### 【作者名】

深川辰巳

### 【あらすじ】

目の前には黄色い家が建っていた。

何故黄色いのか？

衝撃の事実が明らかになる。

そこは黄色い家だった。

なぜ一面黄色なのか……？

不思議に思っ立ち止まって眺めていると庭にいる家主らしき老婆が声をかけてきた。

「息子が亡くなったんですよ」

それはそれはご愁傷様……だが見知らぬ人にいきなり言うセリフではない、と思う。

それに私が知りたいのは、何故家が黄色いか、である。

「息子は病気でしてね」

なるほど長いこと看病して苦労したことがシワの数からうかがえる。

老婆と表現したが実年齢は老婆と呼ぶには失礼な若さなのかもしれない。

だが、私が気になるのは何故家が黄色いかである。

「息子は黄色いうんこを投げる病気でして……」

そこで彼女は泣き崩れてしまった。

なるほど、それで家中が黄色いのか。

納得した私はこの場に居る理由は一つもないのだが、彼女を放って去っていくのはあまりに気の毒に思えた。

「洗っても色が取れなくて……」

黄色いうんこがこびりついている割に匂わないのは、洗ってはい  
るからか。

「亡くなった今でも時々家から黄色いうんこが見つかるんですよ」

一体どれだけ投げられたというのだろうか？ 私はむしろ興味が  
湧いてきた。

「まあ、上がってお茶でも一杯飲んでいきませんか？」

前言撤回。興味は失せた。

断固お断りである。洗っているとはいえ元はうんこである。  
その色が染みついた家など近づくことすら遠慮願いたい。

「そう言わずに、さあさあ」

彼女はさつと縁側に面した障子を開けた。

そこには

彼女の親類縁者とおぼしき人々が

黄色いうんこを持って

私を睨んでいた……。

**（後書き）**

食事中の方、ごめんなさい。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2722j/>

---

黄色い恐怖

2010年10月10日06時10分発行